

3

3D関連の設備充実と既存インフラの活用で
ニッチな「中量生産」の新市場を開拓。

株式会社大成モナック
東大阪市角田 1-5-8
TEL.072-966-8885
http://www.taisei-monac.co.jp/



草刈機など小型農業機械メーカーとして順調に歩んできた同社は、10年前にプロダクトモデルの設計・製作を手がける会社をM&Aで合併。社名を大成モナックと改め、プロダクトモデル事業の強化に注力。現在、多様なメーカー企業の試作品に加えて、博物館に納める古代生物の化石のレプリカなども製作している。同社の強みの一つは、熟練の塗装技術。たとえば樹脂で成形したモデルを、「本物よりも金属らしい」リアルさで提供できる。試作と量産の両輪を加速させるべく、同社では次なる「変革と挑戦」に向けて始動。それが栗原俊哉社長の言う「短納期をウリにした中規模量産事業の開拓」だ。射出成形機、高性能3Dプリンターなどの導入はそのために「まず1個作った化石のレプリカを、あと100個作って学校に納める」といったニーズにも短納期で対応していく。さらに、その先を見据えた戦略として、プロダクトモデル事業と機械生産事業をより深く融合させ、原型づくりから本製品の量産までを一気通貫でカバーする、総合的なものづくり企業への飛躍をめざしている。

4



株式会社アスカメディカル
大阪市城東区関目 2-12-10
TEL.06-6939-3011
http://www.asukamedical.co.jp/

5



浅井金型株式会社
羽曳野市誉田 1641
TEL.072-956-9037
http://www.a-mold.co.jp/

医療現場のニーズをきめ細かくキャッチし
スタッフの「お困りごと解決」を強力に訴求！

「今までお手数お掛けしてごめんなさい スタッフさんの洗浄業務を引き受けます」従来看護師達の用手洗浄に委ねられていた鉗子、マイクロ器械などの小型施術ツール。それらをボタン一つで自動洗浄・乾燥する超音波洗浄乾燥機のパンフレットのコピーだ。「伝わらなかったら製品は存在しないも同じ。キャッチな表現にすることでパンフの歩留まりが向上しました」と、本品のメーカー、株式会社アスカメディカルの林延弘社長。同社が自信を込めて自社製品をアピールする背景には、機能面での優位性がある。特許技術「レビテーション超音波方式」もその一つ。振動子を槽内に傘型に配置することで超音波を放射状に発振させ、対象物へあらゆる方向から着波させ、器具の形状を損なうことなく洗浄力を大幅に向上させた。呼吸器回路用の蛇管やチューブなどを、残留問題が気になりな消毒薬を使わず、熱水処理で洗浄・除染をサポートする全自動機器も好調。医療現場で実際に使用する女性スタッフの目線に立ち、シンクなどの設備機器も準オーダー仕様で受注し、医療環境のトータル支援企業としての実績を重ねている。

デザインを通じた出会いの場づくり！
新しい取り組みから学ぶことがあった。

競争が激化する金型製作に携わる中で、デザインを含めた仕事を模索していた浅井理男社長。しかし、複雑な金型構造をデザイナーに伝える説明の難しさや、製品デザインを実際に形にするためのコストが大きな壁になっていた。そんな時、ある先生から「大学生に、ものづくりを教えたい」という話が舞い込む。「学生のデザイン力の素晴らしさを知るとともに、デザインを形にするための金型構造を学生に指導することで、今まで壁となっていたデザイナーへの説明方法を自分が学びました」と浅井社長。新しいものづくりの形に手応えを感じ、すぐに大学や企業に呼びかけて学生デザインと企業をマッチングさせる「産学連携デザイナー育成プロジェクト2013」を立ち上げ注目を浴びる。現在は、「新しい形を仕事に役立てるには時間が必要。体力を強化してその時に備えます」と原点の金型事業にも力を込める。外枠部分を共有化して1ロット1千個程度でのコストダウンと納期短縮を提案する「チェンジシステム金型」に、精度を高める新型マシンを導入した。3Dプリンターでも製作困難な高い精度を求め、精密機械や医療などの分野への拡大を狙う。

6



平成25年度
ものづくり
イノベーション支援
プロジェクト
認定
オーハツ株式会社
富田林市甲田 3-5-11
TEL.0721-24-2688
http://www.ohatsu.co.jp/

常に時代の先を読み、新エネルギーに対応する
緊急用発電機の開発を続ける！

防災用・非常用の発電装置の製作、販売を行うオーハツ株式会社。防災用・非常発電装置の必要性は阪神大震災以降見直されており、昨年は前年比約1.5倍の売り上げを記録した。「今後は省エネを意識して風力、水力などの動力源に注目し、いかに小さなエネルギーで発電機をまわすことができるかを考える必要があります」と代表取締役社長の芝谷康二氏は語る。そんな中、大阪府立大学の協力を得て開発した「微風対応型風力発電システム」が注目を浴びている。一般的な風力発電機は、弱風対応の機種は強風になると自動停止し、強風対応の機種は弱風だと発電しないという難題があったが、同社は風の強さに応じて電圧制御と周波数制御が切り替わる新型インバータを導入するなどして解決し、幅広い風速でムダなく発電できるシステムを開発した。「この分野では後発メーカーでしたので従来の風力発電の問題点にポイントを絞って開発しました」と話すのは技術部主任研究員の木村均氏。同社はさらに、水力などに対応する発電機の開発を進めるなど、次代に備えたアクションを続けている。

7



吉本製鏡株式会社
大阪市東住吉区杭全 8-3-23
TEL. 06-6702-3002
http://www.yoshimoto-seikyo.com/

社員の強さが会社の強さ。「人間性の高揚」を旗印に
新たな歴史づくりに挑む老舗企業。

ガラス鏡の輸入が始まって間もない1883(明治16)年に創業し、高級枠付き鏡の老舗として歩んできた吉本製鏡株式会社。21世紀に入り枠付き鏡が中国産の攻勢で低価格化する中、大手商社から同社に入社した淵田社長の強力なリーダーシップのもと、市場変化に対応した産業用ミラーへといち早くシフトし、それが同社の強みを形成した。現在では洗面化粧台用、ユニットバス用、美容院用、ロッカー用といった産業用ミラーとそれに伴う工事費が売上の85%を占めている。淵田氏は「人間性の高揚」を企業経営のベースに据え、自らが率先して実践。会社の前の道路を清掃する社長の姿に、社員たちも同調し道路清掃が習慣化。それが近隣住民の共感と感謝を呼び、地域との温かいコミュニケーションを育てる契機になった。「明るく、元気に、大きな声であいさつ」も同社の大切な社訓の一つとなっている。「働く人の強さこそが企業の強さ」という信念のもと、吉本製鏡は創業130年目を迎えた今、新たな歴史づくりへと挑戦する。



出会って、見て、聞いて、触れて！
事業のヒントが見つかる異業種&異世代交流ネットワーク。

大阪府研究開発型企業振興会(ORD)
大阪市鶴見区放出東 1-10-25
奥野製業工業株式会社 企画開発部企画開発室内
TEL.06-6961-0886
http://www.ord.gr.jp/



海中探査機の開発、医療における光技術など、コアなテーマの講演会やセミナー、東大宇宙線研究所のスーパーカミオカンデ、日本最大級の独立系発電事業所などレアな体験ができる見学会。これらの斬新な取り組みを精力的に行っている大阪府研究開発型企業振興会(ORD)は、研究開発に主眼をおいた企業の経営者や開発担当者の集団として1986年に発足した産官学連携のユニークな異業種交流会だ。化学系、電機系、樹脂系、金属系などの製造業を中心に、情報サービス、金融、商社など約60社が加入。「社長、重役クラスの方々が多く参加され、皆さん豊富な人脈と決定権をお持ちなので、催しの企画がスムーズに決まるだけでなく、取り引き先の紹介など、会で出た話は持ち帰ってすぐまとまります」と事務局長の佐藤晴央氏。集会の後は、居酒屋で和気あいあいの懇親。オプザーバー参加も大歓迎で、敷居の低さも特色といえる。「大阪のものづくりを元気に！」を目的に、これからは若い世代の参加を積極的に求め、異業種&異世代の交流を通じて「おとなの勉強を体験できる場」として盛り上げていきたいとORDでは希望している。